

<10月定例研究会の報告>

平成28年10月22日（土）、当研究所で定例研究会が行われました。
研究会のテーマは基礎学習です。
午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行いました。

研究授業者：有村美恵子（つばき教育研究所スタッフ）
対象児：特別支援学校（視覚障害） 小学1年生
テーマ：基礎学習
学習内容：「同じの概念形成」

I、指導経過

1、学習開始時の様子（平成27年10月～）

平成27年10月から月1回1時間の学習を開始した。遠方からの通所で、本研究所での学習時間が多く取れない為、家庭でも行いやすい課題や教材を選び学習を進めることにした。

また、学習課題や教材が多いと混乱する様子も見られたので、課題や教材は数を出来るだけ少なくして、呈示はわかりやすく簡潔に伝えるよう心掛けた。以下は現在まで行った課題である。

- (1) 手指の操作性を高める学習
ボールを取る。→ゴルフボールを取る。→ビー玉（大）を取る。
- (2) 箱にボールを入れる学習
- (3) 筒を抜く学習（1方向、2方向）
スライディングブロック（1方向）、スライディング型はめ（1方向）
- (4) 延滞の学習
 - ①器に入っている玩具を取る。（器一つ・器の中に玩具が入っている。）
 - ②器に入っている玩具を取る。（器二つ・片方の器の中に玩具が入っている。）

※上記の課題は現在も学習中である。

①ボール入れ



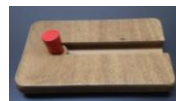
②筒抜き



③スライディング型はめ



④スライディングブロック



2、現在の課題





- (1) 形の学習（はめ板に形を入れる学習 まる ○ 1対1）
- (2) 順序の学習（左から順番に筒を抜く3本）
- (3) 弁別学習（正選択肢と誤選択肢の二つの具体物を触り、正選択肢の具体物を選ぶ学習）
- (4) 同じの概念形成の学習（正選択肢と誤選択肢の二つの具体物を触り、見本と同じ正選択肢の具体物を選ぶ学習）

※ 現在の学習は、物の触り方や各課題のやり方を教えている段階なので、すべて援助をして学習を進めている。出来るようになってきたら少しずつ援助を減らしていくように考えている。

また両手が十分に使えるようになる為に、筒抜きやスライディングブロック、ポール入れ等の学習は、利き手（右手）だけでなく左手でも行っている。

II、本時の学習

1、学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
(1) 順序の学習 ①筒抜き ②棒抜き	①左から順番に筒を抜くことができる。 抜いた筒を缶に入れることができる。 ②左から順番に棒を抜くことができる。 抜いた棒を缶に入れることができる。	①  5 cmの筒3本、缶 ②  5 cmの棒3本、缶
(2) 弁別課題 ・正選択肢 ペグ ・誤選択肢 ハンカチ	・正選択肢と誤選択肢を触り、正選択肢（ペグ）を選ぶことができる。 ・選んだ正選択肢（ペグ）を筒に入れることができる。 ・キューとなる音を楽しむ。	 ・呈示台（筒、正選択肢・誤選択肢を置く板） ・ペグ、ハンカチ
(3) 同じの概念形成 ・正選択肢 鈴 ・誤選択肢 ハンカチ	・正選択肢と誤選択肢を触り、見本と同じ正選択肢（鈴）を選ぶことができる。 ・鈴を両手で二つ持ち「おなじ」と3回あわせることができる。	 ・呈示板（見本を置く入れ物 正選択肢・誤選択肢を置く 入れ物） ・鈴、ハンカチ

2、展開

学習項目	学習内容	留意点
1、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめます。」と一緒に言って頭を下げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に言おうとする様子が見られた時はすぐに褒める。
2、順序の学習 (1) 筒抜き ① 1 試行目 ② 2 試行目	<ul style="list-style-type: none"> ・「順番の学習をします。」と言って筒抜きを呈示する。 ・筒抜きの台全体を触る。次に缶を触る。 ・左から順番に筒を抜き缶に入れる。 ・筒を全部抜いたら、筒抜きの台を左から順番に触り、筒がないことを確認する。台の右端を触り「おわり」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筒を抜く手が早くなった時は「ゆっくり」ということばかけをして、早くならないように援助をする。
3、弁別課題 ① 利き手側 1 対 1 ② 反利き手側 1 対 1 ③ 利き手側 後出し ④ 反利き手側 後出し	<ul style="list-style-type: none"> ・「キューの学習をします。」と言って呈示台を呈示する。 ・呈示台全体を指示された順番で触る(筒→選択肢を置く左右の呈示板) ・「キュー探してくださいね。」と言って指示された順番に選択肢を触る。 ・「キューはどっちですか？」のことばかけで正選択肢を取る。 ・筒に入れる。音を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正選択肢のペグを選び筒に入れる時は、片手のみで入れないように援助をする。(片手は筒を持ち片手はペグを持ち入れるようにする。)
4、同じの概念形成 ① 反利き手側 1 対 1 ② 利き手側 後出し ③ 反利き手側 後出し ④ 利き手側 先出し	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じの学習をします。」と言って呈示板を出す。 ・呈示板全体を指示された順番で触る。(見本を置く入れ物→選択肢を置く左右の入れ物) ・見本を置く入れ物に鈴を置き「鈴、これとおなじ」と言って鈴を触る。 ・指示された順番で選択肢を触る。 ・「おなじ、どっちですか？」のことばかけで正選択肢の鈴を取る。 ・両手に鈴を持ち「おなじ」と言いながら3回合わせて音をだす。 ・見本の入れ物に鈴を二つ入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに呈示板を出した時、子どもが自ら手を動かし、全体を確認しようとする様子が見られた時は、援助の手を緩め、子ども手の動きに合わせる。その後もう一度全体を指示された順番で触る。 ・選択の時、誤選択肢を取ってしまった時は一度撤去してもう一度呈示をやり直す。その場合は、正選択肢を触った時に「同じはこっちね」と言って握らせ教える。
5、順序 (2) 棒抜き ① 1 試行目 ② 2 試行目	<ul style="list-style-type: none"> ・「順番の学習をします。」と言って棒抜きを呈示する。 ・棒抜きの台全体を触る。次に缶を触る。 ・左から順番に棒を抜き缶に入れる。 ・棒を全部抜いたら、棒抜きの台を左から順番に触り、棒がないことを確認する。台の右端を触り「おわり」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒抜きの台を触る時、台(波状)に沿ってゆっくり手を動かすように援助をする。 ・台の右端(終わり)がわかるようにゆっくり手を動かすように援助をする。
6、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・「おわります。」と一緒に言って頭を下げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まで頑張ったことをほめて伝える。

Ⅲ、研究協議

研究授業終了後、研究協議が行われました。特別支援学校の先生方、障害支援施設の職員の方、教育関係の方などの参加がありました。

初めに授業者から補足説明があり、その後、質疑応答が行われました。参加された方の質問に、理事長の宮城が教材を使用しながら説明を行いました。

〈授業者からの補足説明〉

- ・本児は、触る、握る、放す、押す、たたく、引く等などの基礎的な手の操作はできていたので、初期学習が進んだ後、基礎学習にはいりました。
- ・「空間概念の形成」では、筒抜き、スライディングブロック、スライディング型はめ等の教材を用いて、方向を理解する学習を行っています。1方向が終了したので2方向の学習を行っています。
- ・「同じの概念形成」で用いる具体物は、触ってすぐに違いがわかる物を用いています。上手に触り見分けができるように、援助をして進めています。

〈参加された方の感想〉

- ・楽しく学習をしているのが印象的でした。ひとりひとりの子どもの理解にあわせて、教材・教具を作っているからなのだと思います。
- ・視覚障害のお子さんの場合、手をどのように援助していくのか、とても大切だということがわかりました。働き手（利き手）と、支え手（反利き手）の使い方も知ることができ、とても勉強になりました。

〈参加された方からの質問〉

- ・点字までの学習にはどのようなものがあるのでしょうか？
- ➡①手や指の触感覚の向上 ②手と手の協応動作 ③手や指の触運動の統制 ④触空間の形成 ⑤形の弁別 ⑥同じの概念形成 ⑦未測定の理解 ⑧空間概念の形成（方向・順序・定位・上下・左右）等です。形の学習等は具体物→触図形→輪郭線図形へと進めていきます。またこのような「初期学習」「基礎学習」とともに、身辺自立（食事、排泄、衣服の着脱）も大切な学習であるので、並行して行った方がいいでしょう。
- ・肢体不自由のお子さんの場合でも、方向を理解する学習は必要だと思うのですが、どのように援助したらいいのでしょうか？（例 筒抜きの場合）
- ➡学習はすべて援助して行います。一人で筒を持つことが難しいお子さんでも、一緒に持ち学習を行います。その時、子どもの手に少しでも力が入れば、抜こうとしたと考え、よくほめ、援助して抜きます。このように、援助をして教えていくことで、子どもは抜く方向を理解していきます。

〈まとめ～理事長宮城～〉

考える力を育てるためには、「まちがえさせない」ことが大切です。今日の学習（弁別課題・同じの概念形成）では、正選択肢を教えて、誤選択肢を撤去することが重要でした。

まちがえさせない工夫をして、スモールステップで正反応を積み重ねることが、子どもの考える力を育てることになります。

基礎的な力を養っている段階においては、「まちがえさせない」学習がなにより

大切です。

次回の定例研究会は2月に予定しています。多くの方のご参加をお待ちしております。